

第1回会議における御意見について

1. 総論等

No.	御意見	記載箇所等
1	<ul style="list-style-type: none"> 委員の議論と復興庁でまとめる文書の間を整理して欲しい (田村委員) 	<ul style="list-style-type: none"> 委員のご意見については、復興庁が取りまとめる文書の本文において、教訓や課題等として記載予定 本会議の議事録等とはとりまとめ文書の附属資料として添付
2	<ul style="list-style-type: none"> 被災者支援については、第4章のほか、第5章以降も間接的な支援となっており、章ごとの関係も整理すべき (田村委員) 各章細切れに書くだけではなく、全体を俯瞰し、章ごとの関連性も記載できると良い (秋池委員) 	<ul style="list-style-type: none"> 本文冒頭において、章構成の考え方や章同士の関係についての記載を検討 各章においても、他章と影響し合う点を個別に加筆
3	<ul style="list-style-type: none"> 過大な事業等の各分野共通する課題もあり、それらを6つくらい総論として、文章を練って提示できるとよい (藤沢委員) 	<ul style="list-style-type: none"> 2章1節（骨子案 p.11）への記載を検討
4	<ul style="list-style-type: none"> アウトプットは、行政のみならず、国民や企業等に活用されるものであるべき (今村委員) 	<ul style="list-style-type: none"> アウトプットの公表方法等について引き続き検討
5	<ul style="list-style-type: none"> 現段階では、定量的な評価を行うことは難しいが、「復興」についての定義や考えの整理も必要 (今村委員) 総括WGとの違いとして、今回はあるべき復興の姿と現実の差異を振り返ることだと思っている (大西委員) 構想会議で「減災」という言葉について議論があった (大西委員) 	<ul style="list-style-type: none"> 本会議において、引き続きご議論 2章1節（骨子案 p.11）への記載を検討 関連資料 1-1. 参照
6	<ul style="list-style-type: none"> 防災の新たな試みを根付かせる教訓を生んだ (田村委員) 	<ul style="list-style-type: none"> 1章1節（骨子案 p.8）への記載を検討

2. 被災者支援

No.	御意見	記載箇所等
7	<ul style="list-style-type: none"> ・ 目標と実際のギャップが課題として議論されるべき (田村委員) ・ 生活再建のために被災者が選択肢を求めたタイミングと行政が施策を提供できたタイミングにギャップがあった (田村委員) ・ 各災害に共通の評価指標があるべき (田村委員) ・ 生活の復興度合いを測る指標があればよかった (田村委員) ・ 課題は心の状態目標等を設けられていないこと (藤沢委員) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 4章1節(骨子案 p. 34) への記載を検討 ・ <u>関連資料 2-1. 参照</u>
8	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人のつながりまで施策対象としたことは画期的。以後の災害にもつながっている (藤沢委員) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 4章1節(骨子案 p. 34) への記載を検討 ・ <u>関連資料 2-2. 参照</u>
9	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特に原子力災害では、「人の復興」にも着目することが必要 (大西委員) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 7章2節(骨子案 p. 80) への記載を検討 ・ <u>関連資料 2-2. 参照</u>
10	<ul style="list-style-type: none"> ・ 心のケアが当初課題になった。避難所の運営の仕方等の教訓も必要 (大西委員) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1章1節、4章1節(骨子案 p. 8, 34) への記載を検討 ・ <u>関連資料 2-2., 2-3. 参照</u>

3. 住まいとまちの復興

No.	御意見	記載箇所等
11	<ul style="list-style-type: none"> ・公共施設の維持管理を考えると、過大な事業により、後年度、自治体財政が逼迫する懸念 (増田委員) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 5章 1節 (骨子案 p. 40) への記載を検討 ・ <u>関連資料 3-1. 参照</u>
	<ul style="list-style-type: none"> ・自治体の維持管理費等の後年度負担も懸念される (大西委員) 	
12	<ul style="list-style-type: none"> ・財源フレーム等が当初「10年間」に限られたことが、地元で復興まちづくりを議論する際の足枷になった。 (今村委員) 	<ul style="list-style-type: none"> ・本会議において、事前復興の取組の必要性和わせて引き続きご議論 ・ 1章 2節、 5章 1節 (骨子案 p. 10, 40) への記載を検討 ・ <u>関連資料 3-2. 参照</u>
13	<ul style="list-style-type: none"> ・人口減少下で過大な事業。移転後の小規模集落は維持困難 (大西委員) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 5章 1節 (骨子案 p. 40) への記載を検討 ・ <u>関連資料 3-2. 参照</u>
	<ul style="list-style-type: none"> ・事業が過大になったと感じている。災害後に事業計画すると現地では前よりも良くしたくなり、世論も支えがちになるので、事前復興の取組が必要 (藤沢委員) 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・過大な事業は地域にとって負の遺産になりうる。事前復興の取組が効率的・効果的に進められるようガイドが示せるとよい (秋池委員) 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・復旧・復興のイメージやプロセスを全国に共有し、各地の事前復興の取組推進につながるアウトプットを期待 (今村委員) 	
14	<ul style="list-style-type: none"> ・所有者不明など用地問題の制度改善についてタイムリーになされたのか、漏れがないか検証が必要 (増田委員) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3章 2節 (骨子案 p. 26) への記載を検討 ・ <u>関連資料 3-3. 参照</u>

4. 産業・生業の再生

No.	御意見	記載箇所等
15	・グループ補助金は良かったが、販路開拓・売上回復等が課題 (藤沢委員)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 6章1節(骨子案 p. 69) への記載を検討 ・ <u>関連資料 4-1. 参照</u>
	・販路回復等については、行政の支援には限界がある (藤沢委員)	
16	・事業承継等の課題もあり、産業転換も必要な中、グループ補助金を使った結果、新陳代謝が阻害されたのではないか。地元の商工団体へのヒアリング等も行い、検証することが必要 (増田委員)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 6章1節(骨子案 p. 69) への記載を検討 ・ ヒアリングを実施 ・ <u>関連資料 4-2. 参照</u>

5. 原子力災害固有の対応

No.	御意見	記載箇所等
17	・福島についてこれから取り組むべき課題を整理すべき (大西委員)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 7章(骨子案 p. 79) への記載を検討 ・ <u>関連資料 5-1. 参照</u>
18	・避難指示解除が遅れると、居住率・帰還率が下がる(藤沢委員)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 7章2節(骨子案 p. 80) への記載を検討 ・ <u>関連資料 5-2. 参照</u>

6. 協働と継承

No.	御意見	記載箇所等
19	<ul style="list-style-type: none"> ・ ボランティアの主体が個人から団体・企業レベルに広がり、企業が継続的かつ目的意識を持って被災地域に入ってきたことは大きな動きである (今村委員) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 8章1節(骨子案 p. 90)への記載を検討
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 企業の活躍が大きな特徴。NPO等については、行政からの支援が予算単年度主義で数年先まで見通せなかったのが課題 (藤沢委員) 	
20	<ul style="list-style-type: none"> ・ ボランティア等をスムーズに受け入れるための試行錯誤を整理しておくことが必要 (増田委員) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 8章1節(骨子案 p. 90)への記載を検討 ・ <u>関連資料 6-1. 参照</u>
21	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自治体職員派遣等による技術的サポートが一番重要な点 (大西委員) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 8章2節(骨子案 p. 92)への記載を検討 ・ <u>関連資料 6-2. 参照</u>
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国から若い職員が副町長などで派遣されたのも効果的だった。マッチングする仕組みを制度化できるとよい (藤沢委員) 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 職員派遣・対口支援のスキームができあがった意義は大きい (増田委員) 	
22	<ul style="list-style-type: none"> ・ 資料散逸と記憶風化を防止するためのデジタルアーカイブ等が重要 (増田委員) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 8章3節(骨子案 p. 93)への記載を検討 ・ <u>関連資料 6-3. 参照</u>
23	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本海溝沿い地震でも「減災」、逃げることの徹底が必要 (大西委員) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1章1節(骨子案 p. 8)への記載を検討

7. 復興を支える仕組み

No.	御意見	記載箇所等
24	・初動対応に迫われ、応急対応や復旧・復興を検討する段階への移行に時間がかかったことに留意が必要 (今村委員)	・ 2章1節(骨子案 p. 11) への記載を検討
25	・市町村のキャパシティで復興に差が出た。無駄な施設整備を防ぐためにも、市町村を越えた単位の主体が必要 (藤沢委員)	・ 1章2節(骨子案 p. 10) への記載を検討
26	・司令塔及び調整役としての復興庁の設置は評価できる (大西委員)	・ 2章2節(骨子案 p. 11) への記載を検討 ・ <u>関連資料 7-1. 参照</u>
27	・増税には意義がある。学術会議に開発復興税のアイデアがあった (大西委員)	・ 1章2節、2章4節(骨子案 p. 10, 18) への記載を検討
28	・復興財源を税で対応したことは大変良かった (増田委員)	・ 2章4節(骨子案 p. 18) への記載を検討
29	・地方負担ゼロが適当だったか検討が必要 (増田委員)	・ 1章2節、2章4節、3章1節(骨子案 p. 10, 18, 23) への記載を検討 ・ <u>関連資料 7-2. 参照</u>